

数学Ⅲ

特色

本書は、学習指導要領をふまえ、各単元の標準的なレベルの問題を、年間を通じてじっくり完全マスターし、あわせて、受験への基礎対策用としても使用できるように編集されています。

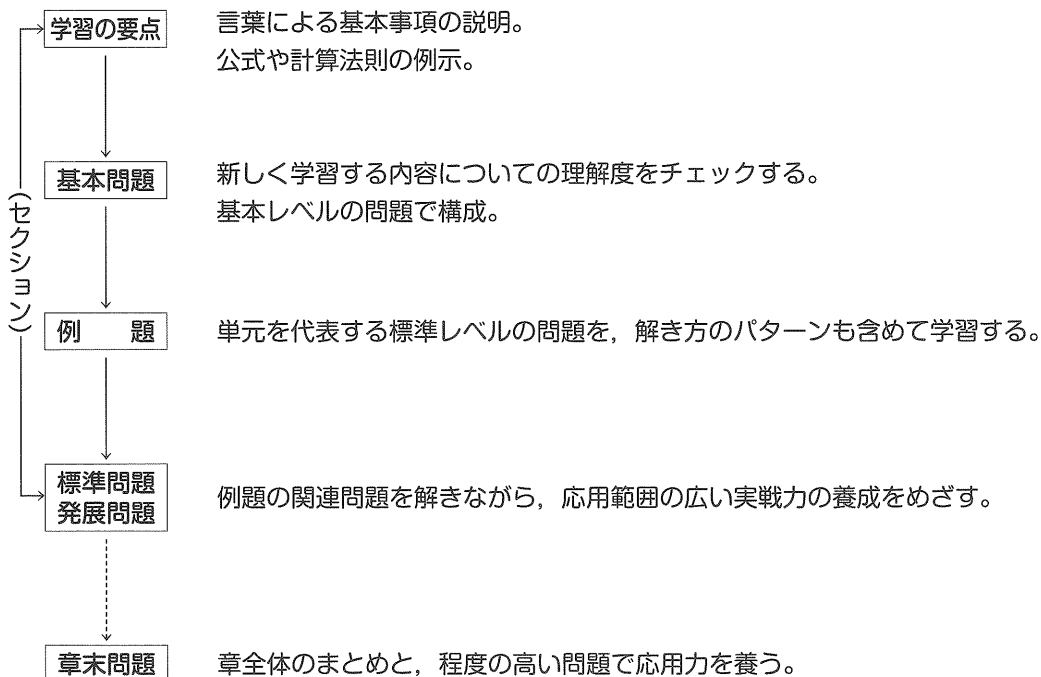
数学は体系が整然としている学問ですから、1つの単元を把握するためには、それを構成している基本事項を正確に理解し、さらに、その単元における典型的な問題の解法パターンを習得することが必要です。

そこで本書では、各単元において、基本事項や重要事項を習得するための基本レベルの問題を取り上げ、それらを反復練習することでまず基礎を固め、続いて、単元の内容をより深く理解する上で必須となる標準レベルの問題を精選して、その解き方をパターンとして学ぶことによって、幅広い応用力が定着するようにしました。

構成

- 数学Ⅲで学習する事項を、7章51セクションに分けました。
- 各セクションは原則として見開き2ページ構成で、年間計画がたてやすいよう配慮されています。

☆1セクションの構成



もくじ

1章 複素数平面		
1	複素数平面	4
2	複素数の極形式	6
3	ド・モアブルの定理	8
4	図形と複素数(1)	10
5	図形と複素数(2)	12
6	いろいろな問題	14
	章末問題	16
2章 いろいろな曲線		
7	方程式の表す曲線	18
8	放物線	20
9	楕円	22
10	双曲線	24
11	2次曲線と直線	26
12	2次曲線の性質	28
13	媒介変数表示(1)	30
14	媒介変数表示(2)	32
15	極座標と極方程式	34
16	いろいろな問題	36
	章末問題	38
3章 関数と極限		
17	分数関数, 無理関数	40
18	逆関数, 合成関数	42
19	数列の極限	44
20	無限等比数列	46
21	無限級数(1)	48
22	無限級数(2)	50
23	関数の極限(1)	52
24	関数の極限(2)	54
25	関数の連続性	56
26	いろいろな問題	58
	章末問題	60
4章 微分法		
27	微分係数と導関数	62
28	導関数の計算	64
29	三角関数の導関数	66
30	対数関数と指数関数の導関数	68
31	いろいろな関数の導関数	70
32	いろいろな問題	72
	章末問題	74
5章 微分法の応用		
33	接線と法線, 平均値の定理	76
34	関数の増減と極大・極小	78
35	関数の最大・最小	80
36	曲線の凹凸, グラフの概形	82
37	方程式・不等式への応用	84
38	速度と加速度, 近似式	86
39	いろいろな問題	88
	章末問題	90
6章 積分法		
40	不定積分	92
41	置換積分法, 部分積分法	94
42	定積分	96
43	定積分の置換積分法, 部分積分法	98
44	定積分で表された関数	100
45	定積分と数列	102
46	いろいろな問題	104
	章末問題	106
7章 積分法の応用		
47	面積(1)	108
48	面積(2)	110
49	体積	112
50	曲線の長さ, 速度と道のり	115
51	いろいろな問題	117
	章末問題	119
重要事項		121

例題 1 共役複素数の性質

複素数 z について、 $|z|=1$ のとき、 $z+\frac{1}{z}$ は実数であることを証明せよ。

着眼点 α が実数 $\iff \bar{\alpha}=\alpha$ が成り立つ。また、 $|z|^2=1^2$ より、 $z\bar{z}=1$ となる。

証明 $|z|=1$ の両辺を 2 乗すると、 $|z|^2=1^2$ $z\bar{z}=1$ より、 $\bar{z}=\frac{1}{z}$

よって、 $\overline{z+\frac{1}{z}}=\bar{z}+\overline{\left(\frac{1}{z}\right)}=\bar{z}+\frac{1}{z}=\frac{1}{z}+z=z+\frac{1}{z}$

つまり、 $z+\frac{1}{z}$ は実数である。

5 類題 複素数 z について、 $|z|=1$ のとき、 $z^n+\frac{1}{z^n}$ (n は自然数) は実数であることを証明せよ。

▶標準問題

6 $|z|=\sqrt{5}$ 、 $z+\bar{z}=2$ のとき、複素数 z を求めよ。

7 $\left(\alpha+\frac{1}{\alpha}\right)\left(\bar{\alpha}+\frac{1}{\bar{\alpha}}\right)=4$ のとき、複素数 α の絶対値 $|\alpha|$ を求めよ。

8 x の n 次方程式 $a_0x^n+a_1x^{n-1}+a_2x^{n-2}+\cdots+a_n=0$ が複素数 α を解にもつとき、共役複素数 $\bar{\alpha}$ もこの方程式の解になることを証明せよ。ただし、 $a_0, a_1, a_2, \dots, a_n$ は実数とする。

9 $\alpha=a+2i$ 、 $\beta=6+3i$ とする。2点 $A(\alpha)$ 、 $B(\beta)$ と原点 O が一直線上にあるとき、実数 a を求めよ。

◆発展問題

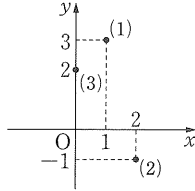
10 複素数 α, β が $|\alpha|=|\beta|=|\alpha-\beta|=1$ を満たすとき、 $\frac{\beta}{\alpha}$ を求めよ。

ヒント $z=\frac{\beta}{\alpha}$ とおき、 $z+\bar{z}$ 、 $z\bar{z}$ の値を求めて、 z を解にもつ 2 次方程式を考える。

1章 複素数平面

[p. 4] 1 複素数平面

1 (3) $(1+i)^2 = 1+2i+i^2 = 1+2i-1 = 2i$



- 2 (1) $z=4+2i$ より, $\bar{z}=4-2i$
 (2) $z=2-3i^2-i=5-i$ より, $\bar{z}=5+i$
 3 (1) $|1+\sqrt{3}i| = \sqrt{1+(\sqrt{3})^2} = 2$
 (2) $|(2+3i)(\sqrt{3}-i)| = |2+3i||\sqrt{3}-i|$
 $= \sqrt{2^2+3^2} \sqrt{(\sqrt{3})^2+(-1)^2} = 2\sqrt{13}$
 4 (1) $\sqrt{(2-0)^2+(-3-1)^2} = \sqrt{20} = 2\sqrt{5}$
 (2) $\sqrt{(7-3)^2+(-5-2)^2} = \sqrt{65}$

[p. 5]

5 類題 $|z|^2 = 1^2$ より, $z\bar{z} = 1$ $\bar{z} = \frac{1}{z}$
 $\frac{z^n + \frac{1}{z^n}}{z^n} = \frac{\bar{z}^n + \frac{1}{z^n}}{z^n} = (\bar{z})^n + \frac{1}{(z)^n} = \frac{1}{z^n} + z^n$
 $= z^n + \frac{1}{z^n}$

よって, $z^n + \frac{1}{z^n}$ は実数である。

6 $z = a+bi$ とすると, $\bar{z} = a-bi$
 $z+\bar{z} = 2$ より, $2a = 2$ $a = 1$
 $|z|^2 = (\sqrt{5})^2$ $a^2 + b^2 = 5$ $b^2 = 4$ $b = \pm 2$
 よって, $z = 1 \pm 2i$

7 $a\bar{a} + 1 + \frac{1}{a\bar{a}} = 4$ $|a|^2 - 2 + \frac{1}{|a|^2} = 0$
 $\left(|a| - \frac{1}{|a|}\right)^2 = 0$ $|a| - \frac{1}{|a|} = 0$ $|a|^2 = 1$
 $|a| \geq 0$ より, $|a| = 1$

8 a は方程式の解だから,
 $a_0 a^n + a_1 a^{n-1} + a_2 a^{n-2} + \dots + a_n = 0$
 $a_0 \bar{a}^n + a_1 \bar{a}^{n-1} + a_2 \bar{a}^{n-2} + \dots + a_n = 0$
 $a_0 (\bar{a})^n + a_1 (\bar{a})^{n-1} + a_2 (\bar{a})^{n-2} + \dots + a_n = 0$
 よって, 共役複素数 \bar{a} も解である。

9 $\beta = k\alpha$ より, $6+3i = k(a+2i)$
 $6 = ka$, $3 = 2k$ を解いて, $k = \frac{3}{2}$, $\alpha = 4$

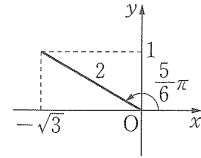
10 $|\alpha|^2 = |\beta|^2 = |\alpha - \beta|^2 = 1^2$ より, $\alpha\bar{\alpha} = 1$, $\beta\bar{\beta} = 1$
 $(\alpha - \beta)(\bar{\alpha} - \bar{\beta}) = 1$ より, $\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta = 1$
 $z = \frac{\beta}{\alpha}$ とおくと, $z + \bar{z} = \frac{\beta}{\alpha} + \frac{\bar{\beta}}{\bar{\alpha}} = \frac{\bar{\alpha}\beta + \alpha\bar{\beta}}{\alpha\bar{\alpha}} = 1$
 $\bar{z}\bar{z} = \frac{\bar{\beta}\bar{\beta}}{\bar{\alpha}\bar{\alpha}} = 1$ z は $x^2 - x + 1 = 0$ の解だから,
 $z = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$ つまり, $\frac{\beta}{\alpha} = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$

[p. 6] 2 複素数の極形式

- 11 (1) $\cos \frac{\pi}{2} + i \sin \frac{\pi}{2}$
 (2) $\sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$
 (3) $|\sqrt{3} + i| = \sqrt{3+1} = \sqrt{4} = 2$

図より, $\theta = \frac{5}{6}\pi$

与式 $= 2 \left(\cos \frac{5}{6}\pi + i \sin \frac{5}{6}\pi \right)$



(4) $|\sqrt{5}| = \sqrt{5}$

与式 $= \sqrt{5} (\cos \pi + i \sin \pi)$

12 (1) $z = 2 - 2i$ とおく。
 絶対値 $|z| = \sqrt{2^2 + (-2)^2} = \sqrt{8} = 2\sqrt{2}$
 偏角 $\arg z = -\frac{\pi}{4} + 2n\pi$ (n は整数)

(2) $z = 2i$ とおく。
 絶対値 $|z| = \sqrt{0^2 + 2^2} = \sqrt{4} = 2$
 偏角 $\arg z = \frac{\pi}{2} + 2n\pi$ (n は整数)

13 $\alpha = 2 \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right)$

$\beta = \sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$

$\alpha\beta = 2 \cdot \sqrt{2} \left\{ \cos \left(\frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{4} \right) + i \sin \left(\frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{4} \right) \right\}$
 $= 2\sqrt{2} \left(\cos \frac{7}{12}\pi + i \sin \frac{7}{12}\pi \right)$

絶対値 $|\alpha\beta| = |\alpha||\beta| = 2 \cdot \sqrt{2} = 2\sqrt{2}$

偏角 $\arg \alpha\beta = \arg \alpha + \arg \beta = \frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{4} = \frac{7}{12}\pi$

14 $\alpha = 2 \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right)$

$\beta = \sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$

$\frac{\alpha}{\beta} = \frac{2}{\sqrt{2}} \left\{ \cos \left(\frac{\pi}{3} - \frac{\pi}{4} \right) + i \sin \left(\frac{\pi}{3} - \frac{\pi}{4} \right) \right\}$
 $= \sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{12} + i \sin \frac{\pi}{12} \right)$

絶対値 $\left| \frac{\alpha}{\beta} \right| = \frac{|\alpha|}{|\beta|} = \frac{2}{\sqrt{2}} = \sqrt{2}$

偏角 $\arg \frac{\alpha}{\beta} = \arg \alpha - \arg \beta = \frac{\pi}{3} - \frac{\pi}{4} = \frac{\pi}{12}$

[p. 7]

15 類題 $z = (1+i)(1+\sqrt{3}i)$
 $= (1-\sqrt{3}) + (1+\sqrt{3})i \dots \dots \textcircled{1}$

また,
 $z = \{\sqrt{2}(\cos 45^\circ + i \sin 45^\circ)\} \{2(\cos 60^\circ + i \sin 60^\circ)\}$
 $= 2\sqrt{2}(\cos 105^\circ + i \sin 105^\circ) \dots \dots \textcircled{2}$

①, ②の实部, 虚部を比べて,
 $2\sqrt{2} \cos 105^\circ = 1 - \sqrt{3}$, $2\sqrt{2} \sin 105^\circ = 1 + \sqrt{3}$
 よって,

$\cos 105^\circ = \frac{\sqrt{2} - \sqrt{6}}{4}$, $\sin 105^\circ = \frac{\sqrt{2} + \sqrt{6}}{4}$

16 (1) $\cos \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right) + i \sin \left(\frac{\pi}{2} - \theta \right)$

(2) $2 \{ \cos(-\theta) + i \sin(-\theta) \}$

17 $z = \frac{(1 - \sin \theta + i \cos \theta)^2}{(1 - \sin \theta)^2 + \cos^2 \theta}$